



2023年3月期 中間期レビュー

当中間期においては、ウクライナ情勢の長期化や、中国のロックダウン等の世界的なサプライチェーンの混乱が継続しており、一方では、社会経済活動の再開に伴い、企業の生産活動や輸出入は回復し、輸送需要も増加しております。

このような環境の中、当社グループは、機動的なスペースの確保を行うことでのフォワーディング業務の取扱増加に加え、顧客のBCP対応や環境負荷低減のための物流ソリューションや、国際輸送から国内における輸配送までを一気通貫でご提供する物流効率化提案により、新規顧客の獲得や既存顧客の受託範囲が拡大しました。また、前期立ち上げのヘルスケア物流専用倉庫と家電量販店・EC向け物流センターの通期寄与もありました。

これらの結果、本ページのグラフの通り、連結営業収益は前年同期比12.3%増の1,572億52百万円、連結営業利益は同17.5%増の136億73百万円、連結経常利益は同23.2%増の144億46百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同36.1%増の91億69百万円となりました。

(注1) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

(注2) 本誌の掲載情報は、将来の見通しに関する記述が様々な表現で掲載されていますが、その見通しはリスクや不確実性に左右され、実際の結果と大きく異なることも考えられます。読者の皆さまには、これらの将来に関する記述に過度に依存なさらないようお願いいたします。

業績POINT

- 1 サプライチェーンの混乱の中で
中計2022施策「統合ソリューションサービス」提案が奏功
新規顧客の獲得や既存顧客の受託範囲が拡大
- 2 各施策の進捗状況と足元の事業環境を踏まえ
通期連結予想値を上方修正

業績推移

■ 中間期 〱 通期 (単位:百万円)



株主還元POINT

1

連結配当性向30%を基準に
業績に連動した機動的な配当へ

2

通期業績予想を反映し年間配当52円増配

2023年3月期の通期業績予想の修正について

当中間期において、フォワーディング業務の取扱が増加したこと、顧客のBCP対応や環境に配慮した代替輸送ルートの提案等のソリューション営業拡大により上期実績が予想を上回りました。

また、海運市況の混乱に伴う海上輸送から航空輸送へのシフトや航空運賃高止まりによる影響は、前回発表時の想定よりも収束に時間を要すると見込んでいることから、通期連結業績予想を修正いたしました。

連結業績予想(2023年3月期 通期)

営業収益

3,050億00百万円

- ・前回予想 3,000億00百万円
- ・前回予想比 +50億00百万円
- ・増減率 1.7%
- ・前年同期(参考) 3,010億22百万円

営業利益

245億00百万円

- ・前回予想 225億00百万円
- ・前回予想比 +20億00百万円
- ・増減率 8.9%
- ・前年同期(参考) 259億39百万円

経常利益

249億00百万円

- ・前回予想 220億00百万円
- ・前回予想比 +29億00百万円
- ・増減率 13.2%
- ・前年同期(参考) 255億53百万円

親会社株主に帰属する当期純利益

150億00百万円

- ・前回予想 135億00百万円
- ・前回予想比 +15億00百万円
- ・増減率 11.1%
- ・前年同期(参考) 145億03百万円

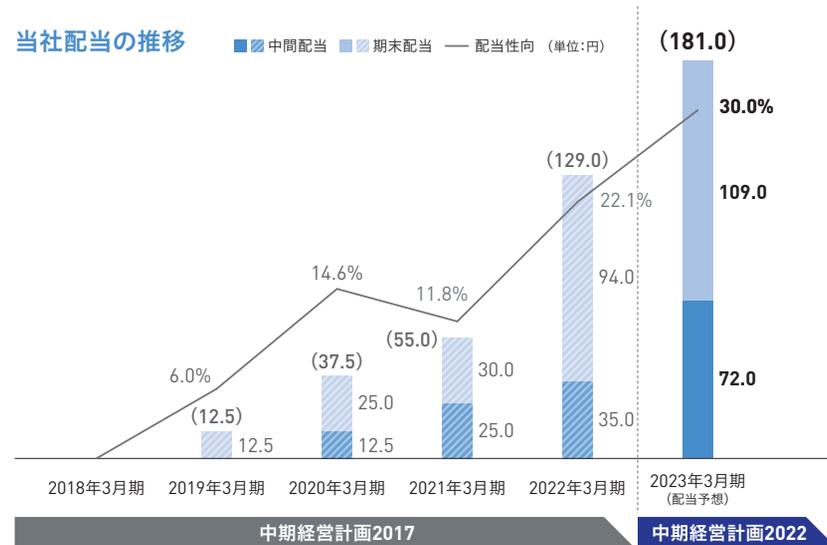
1株当たり当期純利益

603円25銭

- ・前回予想 542円92銭
- ・前年同期(参考) 583円98銭

(注)・表の前年同期:2022年3月期通期の実績です。
・表の前予想比:2022年8月2日発信の当期末業績予想との差です。
・上記に記載した予想数値は、当社が現在入手している情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

当社配当の推移



当社グループは、「中期経営計画2022」(2023年3月期～2027年3月期)において、連結配当性向30%を基準とする業績に連動した機動的な配当を実施する方針としております。今回、2023年3月期の業績予想を修正したことに伴い、配当方針に沿って通期の連結配当性向が30%程度となるよう1株当たり配当金の配当予想を修正しました。